

ホームと家族を結ぶ

おとぎの166号

社会福祉法人 任運社 特別養護老人ホーム 任運荘

〒879-6601 大分県豊後大野市緒方町馬場 796 番地 1

事務室：0974(42)2338 寮母室：0974(42)3322

任運社総合相談支援センター 0974(42)4211

任運荘ホームヘルパーステーション 0974(42)3351

※ 任運社内では介護職を『寮母』と呼びます

F A X : 0974(42)4187

E-mail : ninunsou@gmail.com 編集・発行

<http://ninun.or.jp>

任運荘広報委員会

第47回 任運社五月祭

令和4年5月8日(日)、『第47回任運社五月祭』が開催されました。今年も、新型コロナウイルス感染防止のために各施設で行うこととなり、任運荘はホールでの開催となりました。

初めに、廣本賢郎理事長より「任運荘は満47歳になりました。任運荘が47年目を迎えたのは、地域の方々、ご家族の方々のご理解とご協力があったからです。昭和50年5月15日に開園した任運荘ですが、初代の橋本達雄理事長は、『小さいけれども清潔な施設運営を目指します』と宣言しました。清潔とは、特にお金の面ではきちんとしていますという思いが込められていました。そして、『ここ任運荘を建てようと言った吉田嗣義会長は『利用者本位』という目標を掲げました。ここ任運荘を必要とする方々のためには利用者本位でなければならぬという思いです。また、三代目の吉田哲郎理事長は『重度優先』、介護や症状の重たい方々ほど先に利用してもらおう。そして、『声なき者の声、物言わぬ人の声を大事にしよう』と掲げて任運荘はやってきました。それぞれ歴史の理事長が掲げた目標は、ずっと継承されてきております。これはひとりでの勝手に継承されているのではなく、利用者の皆さん、そして今日ここに表彰される職員の努力の賜物だと思っております。一人ひとりに合わせたお世話の仕方という利用者本位を続ける事が任運社の存在意義です。今日、表彰される方、そしてそれに続く職員共々が、利用者本位を目指して努力をし、それが任運社の目標であるという事を、今日、改めて皆さんに申し上げます」と、開会の挨拶がありました。



30年表彰を受け謝辞を述べる
任運荘の三代幸代看護主任



表彰された職員へ、自らの実体験も
含めた祝辞を述べる穴見フジエさん



主催者代表として挨拶する
廣本賢郎理事長

喫茶(サンドイッチ)

6月9日(木)の午後から、任運荘のホールにて喫茶を開催しました。今日のメニューは、厨房が手作りしたサンドイッチです。イチゴジャムサンドとたまごサンドを作りました。利用者からは「珍しいなあ」「美味しいわあ」や「おかわりは無いかな」と大好評でした。これからも皆さんが笑顔になれるメニューを考えて、喫茶を行っていきます。

担当 上田 桃子



加藤スマコさんも素敵な笑顔。



志賀フキエさん。良い笑顔。



手作りのかわいいサンドイッチです。



甲斐重信さん。美味しいですね。

任運社福祉サービス相談委員会への報告

今回は、令和4年1月～3月に、サービス相談委員会において任運荘が報告したアクシデントとインシデントについてお知らせします。

報告件数	
1月	6件
2月	6件
3月	7件
内 訳	
転倒・転落	11件
バルーンカテーテル抜去	2件
誤投薬	1件
配膳間違い	1件
薬の置き間違い	1件
センサースイッチの入れ忘れ	1件
パーテーションが倒れる	1件
浴槽のお湯が入りすぎた	1件

転倒・転落の報告が多く、ベッド上や車椅子上で動きのある利用者への見守り、また、暖かくなるにつれて、利用者が思いもよらない行動をとられる時があるので、職員間での情報共有を行っていきます。このところ、任運荘では、センサースイッチの入れ忘れや配膳、配薬、投薬ミスが続きました。2月の業務検討会議において、職員全員から意見や考えを出してもらい、話し合いを行いました。センサースイッチについては、居室入口に確認シートを掛け、スイッチ確認後にチェック入れる。センサーに関する標語を作成し朝のミーティングで唱和する。配膳・配薬等については、配薬は看護師と寮母が一緒に行うダブルチェック。居室での配膳時は、他の職員と食札や薬の確認を行い、ホールでは利用者と一緒に確認をする事を取り決めました。

施設周辺の紫陽花が色鮮やかになりました。お天気の良い日は、戸外散歩にお連れしています。「外はやっぱり気持ちがいいよ」と、利用者の皆さんは笑顔で施設に戻って来られます。

先日、ご家族の皆様には4回目のワクチン接種についてご案内させて頂きましたが、接種時期は7月中旬以降の予定です。医師と連携し、確認しながら実施して参ります。

利用者、職員に新型コロナウイルス陽性者となられた方はおられません。リモート面会、窓越し面会等、ご協力下さり心より感謝申し上げます。

施設長 吉野 明子

★広報委員のひとり言

先月、娘の保育園で運動会がありました。コロナ禍になってからの二年間は、クラス毎の時間差開催で、先生達は準備が、そして園児達は競技を続けさまに行うので、本当に大変だと感じておりました。今年も時間差開催だったので、過去二年間と違いがあつて、親子競技が復活したのです。娘のクラスは『二人三脚』で、「いち、に、いち、に」と声を掛け合って行いました。娘が「パパと一緒に走ったのが楽しかった」と言ってくれ、嬉しかったですね。コロナ前の状況に少しずつでも戻って、いろいろな思い出作りができればと思う今日この頃です。

つぶやき

兒玉 マヨさん

「ご飯は美味しいですか」と尋ねたら、「そりゃあ、あなたたちが作っちゃうのあんじゃけん美味しいわあ」と、嬉しい事を言ってくれました。

麻生 正治さん

奥さんと弟さんの面会時、満面の笑顔でお二人に「ようこそ」と言われ、奥さんの名前を聞くと「アキー」と、はつきり呼ばれる。

三代 千恵子さん

職員が「明日は子どもの卒業式だけ、進学するので、まだまだ頑張らんといいません」と言うと、「ううん、子どもが元気であればいいよ。(親は)頑張らんとあゝ」と言ってくれた。その通りです。

佐保 ハツ子さん

「もうすぐ100歳ですね」と言うと、目を大きくして、「もーつまいません。何もできなくなりました」と言う。「佐保さんはできることがたくさんありますよ」と言うと、「そりゃあ、あのころより良くなったか」と、ほっとされた様子。

岡部 ヒサヨさん

利用者・職員対話会の時、外出のお誘いをしてみた。「お墓参りに帰ってみませんか?」「行かなくていいです。もうすぐお墓に入るようなものです」と、笑い飛ばされた。

三浦 光代さん

ティータイムの時、「お茶が熱いので気をつけて下さい」と声をかけると、「熱いお茶にこそ価値がある」と、喜んでくれた。

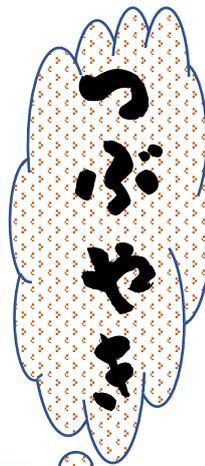
小さい字の書物を読まれていたので、「小さい字ですけど、よく見えますね」と話しかけると、「(小)さい(字)で(雇)う(を)ち(よ)る(け)ん(な)」と、眼鏡を指さして笑顔。

穴見 フジエさん

利用者・職員対話会の時、「何か要望はありませんか」と、職員が尋ねたら、「みんなで仲良くして、施設が田舎に引っ越すのいいです。他にこれ以上のことはいいです」

友永 正男さん

「牛乳瓶をちよつたい」と言われたので、「何に使われるんですか」と尋ねたら、「この花をむすよ」と、五月祭でもらったカーネーションを笑顔で見せてくれた。



清松 ノブコさん

「この食べ物はどうですか」と尋ねると、「いいは、何でもおいしいです。行きたい所も別にありません」と、言われていた。

平井 綾子さん

ホールのテーブルで、もうすぐ100歳をおかえる佐保ハツ子さんを見て、「この人は、しつかりしつやめ。車椅子をいべのもじゃーっし速いんじやがえ」と、褒めていた。

志賀フキエさんと高山ヒサコさん

「熱を測りますよ」と体温計を入れると、「注射するんか」と言う。「えっ、してもいいのですか?」と尋ねると、「必要ならばいいけど、必要ないならいいんもい」と言われニヤリと笑う。

高山ちと「あなた元気な?」

志賀ちと「年中、寝びよるけん、元気じゃ」と笑いながら答えていた。

今年、任運社では永年勤続表彰者が、勤続年数30年4名、10年7名の11名でした。その内5名の職員は、任運荘にて表彰状と記念品が贈られました。利用者を代表して穴見フジエさんより「表彰された皆さん、おめでとうございます。私たちがのお世話、見守ってくださいありがとうございます。世の中は大変な事が沢山あります。腹の立つ事もあるでしょうが、笑顔をやさず、これからも体を大切にしてください」と、激励の挨拶をいただきました。表彰者を代表して任運荘の三代幸代看護主任より「私は4年間の病院勤務の後、ご縁があつて任運荘に看護師として入社しました。その頃は看護師が2人で、初めての1人勤務の時は、不安でいっぱいだった事を今でも覚えてます。病院では経験しなかつた事が沢山あり、施設での看護師の責任の重さをすごく感じました。今まで失敗も沢山ありました。悔やんでも悔やみきれない事や反省する事も沢山あります。そんな時、同僚の言葉や励まし、笑顔に助けられました。私が30年頑張れたのは職員の皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。利用者にとつて施設は生活の場です。皆さんが安心して生活ができるように、健康管理をする事が私の仕事だと思つてます。私は病院の看護師より任運荘の看護師の方が好きです。利用者の皆さんと一緒に笑い、四季折々の行事にふれながら仕事をすることで心が満たされます。皆さん、笑顔で、お元気でいて下さい。これからもそのお手伝いをさせていただきます。任運荘の基本理念である8項目を守りながら、廣本理事長がおっしゃる恕の心、思いやりを持つていつも笑顔をお忘れず、任運荘の仕事に向き合いたいと思います。利用者の皆さん、職員の皆さん、これからもよろしくお願ひします」と謝辞を述べられました。盛大な拍手の中、式典が終了しました。

次は、職員によるアトラクションです。工藤若美寮母が『ダイナミック琉球』と『花々全ての人の心に花を』の2曲を披露し、看護師と相談員は『サザエさん』のダンスを披露し、皆さんは、笑ったり手拍子をされたりと大忙しです。最後は職員全員で『こぼり音頭』を披露し、会場は大きな拍手で賑やかでした。

午後からは、綿菓子を作りました。「甘い」「美味しい」と大好評、その後はアトラクションをもう一度楽しまれ、賑やかな五月祭となりました。

担当 羽田野 瞳



大きな(?)サザエさん集合!
(女性3人・男性1人)



飛賀アヤ子さん。勇ましい姿の工藤若美寮母と記念写真。



この日は『母の日』でもありました。皆さんにカーネーションのプレゼント。



平井綾子さん。利用者作品を背景に記念撮影。



後藤ツユ子さん。「甘いよ」と感想を言ってくれました。



三代千恵子さん。綿菓子は美味しいですね。

お花見会

笑顔の花が咲きました！

4月9日(土)の午前10時より、任運荘ホールにて、『お花見会』を開催しました。

吉野施設長の開会挨拶のあと、職員による踊りが披露されました。『花笠音頭』と『ドンパン節』の2曲です。会場からは自然と手拍子が始まり、職員の踊りもキレを増し、次に、利用者と職員で『さくらさくら』を歌いました。皆さん、とても元気な声で歌われ、歌い終わると、飛び入り参加で変なおじいさん(?)とおめで鯛(?)が登場。愉快な踊りの披露や皆さんに花を配ってまわり、大きな笑い声で会場が包まれました。最後に、工藤若美寮母による『演歌桜』が披露されました。

昼食は、厨房職員手作りの『花見弁当』です。皆さんの大好きな巻き寿司が入っており「美味しいな」という声が聞かれました。

午後からは、利用者も『おめで鯛』に変身。皆さん素敵な笑顔で、笑いの絶えない一日となりました。

担当 高倉 智恵



渡邊キヨさん。マイクを向けると歌ってくれました。



芦刈トヨさん。職員の『ドンパン節』に手拍子をしてくださいました。



職員による『花笠音頭』



工藤若美寮母の優雅な舞。



佐藤静子さん。変なおじいさんとのツーショット。嫌がってますよね…。



変なおじいさん…吉野施設長 おめで鯛 …野脇看護師



伊東滋代さんの『おめで鯛』何かビックリしたようなお顔ですね。



岡部ヒサヨさんの『おめで鯛』「はい、ポーズ」に「ピース！」



後藤ツワさんの『おめで鯛』とても素敵な笑顔ですね。

外出ドライブ

〜 原尻の滝へ チューリップ見物 〜

4月12日(火)、6名の利用者が久しぶりの外出ドライブに行かれました。原尻の滝でチューリップ見物をされ、皆さんの素敵な笑顔の花が、チューリップに負けないくらい、たくさん咲きました。

担当 佐藤 里香



三浦光代さん。原尻の滝に着くと「まあ～、きれいやなあ」と笑顔いっぱいでした。



工藤イツヨさんはチューリップにとっても喜ばれ、売店で買ったおやつも食べ、素敵な笑顔を見せてくれました。



高山サヨ子さん。「やっぱりきれいやったわ。見るだけの事はあった」と笑顔でした。



友永正男さん。「美しいね。最高じゃあ。連れて来てくれてありがとう」と言ってくれ、アイスも「美味しい」と喜ばれていました。



衛藤秋光さん。いろんな種類のチューリップを見て「ほう～、こりゃあ珍しい」と感心していました。



河野ハル子さん。久しぶりの外出で春の気候やチューリップの景色を楽しみました。アイスも食べ満足しました。

玉葱収穫!

〜「小さな農業」に「明るい声」〜

清々しい五月晴れの4月28日、昨年11月に植え付けた玉葱の収穫をしました。それぞれに「よいこらしよつ」と、大きな掛け声で玉葱をひいて記念撮影しました。

「この玉葱はどうやって食べましょうか?」と問うと「そのままサラダか、味噌汁に入れるといいな」「ライスカレーがいいわ」など意見ができました。

玉葱は厨房にて調理され、5月18日のお昼ご飯に「かき揚げ」として振舞われました。「美味しいなあ」「心がかもつちよんな」や、岡部さんは「私たちの頃は種から作りよったんで」と言われ賑やかな昼食になりました。

担当 森 園美



村上昌子さん。大きな玉葱が抜けて笑顔でした。



兒玉マヨさん。職員と一緒に「よいこらしよ!」



高山ヒサコさん。かき揚げは美味しかったですね。



河原雪夫さん。職員の「せ～の」の掛け声で勢いよく引き抜きました。



薬剤師の橋本恵美子さん。「玉葱は血液サラサラですね」と声をかけると笑顔で頷かれました。

5月生

穴見 フジエさん (85歳)



花が好きな穴見さんです。玄関前の花を見に行く。と、花の名前を職員に教えてくれます。自宅でもたくさんのお花を育てていたそうです。

担当寮母 長門 昭子

高山 ヒサコさん (98歳)



余暇時間は、趣味の手芸で帽子やミニ草履などを作られています。先日『五月祭』では、高山さんの作品集が展示されました。

担当寮母 羽田野 弘美

高橋 アイ子さん (88歳)



車椅子に起きられたら、居室から中庭を必ず見られます。庭にある花や木を、穏やかな表情で眺められています。花が好きなんです。

担当寮母 伊東 菜保美

伊東 滋代さん (80歳)



物静かな感じですが、声をかけると、たくさんお話しをしてくれます。ニコッとされるその笑顔に、私は元気をもらっています。

担当寮母 宮脇 理恵

工藤 キミエさん (94歳)



誕生日前に、「もうすぐお誕生日ですね。94歳になられるのですか」と声をかけたのですが、返事をしてくれませんでした。そこで、「20歳になるんですか」と尋ねると、おもいきり笑ってくれました。

担当寮母 木本 佳代子

年齢は令和4年5月末現在

お花祭

4月8日(金)は、お釈迦様の誕生を祝う『お花祭』です。たくさんのお花で飾られた花御堂の中に甘茶を入れ、お釈迦様像に柄杓で甘茶をかけて、皆さん一年の健康を祈りました。

担当 宮崎 正規



堀 右橋さん



山内 スマエさん



工藤 幸子さん



三代 智子さん

誕生者紹介

3月生

友永 正男さん (92歳)



釣りが大好きで、寮母に「そろそろ新しいのを買わないかん」と言って、持って来られたリールを見せてくれます。釣りゲームをした時は、目が輝いています。

担当寮母

羽田野 瞳

三浦 光代さん (91歳)



「いつもありがとう」と、職員に感謝の言葉を伝えてくれます。お風呂が大好きで、入浴中は「気持ちいい。早くからお風呂に入れて幸せ」と、とても素敵な笑顔を見せてくれます。

担当寮母

羽田野 弘美

首藤 富美代さん (85歳)



まだ入居されたばかりですが、寮母と一緒にチューリップの歌を歌ったり、お話ししたりと、少しずつ任運荘での生活に慣れてきています。

担当寮母 西原 怜菜

工藤 イツヨさん (87歳)



利用者や職員と楽しくお話しをされます。笑顔がとても素敵で、職員へいつも感謝の言葉も伝えてくれます。穏やかで、皆さんの癒しの存在です。

担当寮母 文東 明美

河野 ハル子さん (97歳)



入浴が大好きで、いつも楽しみにされてます。ご自分から寮母に入浴の有無を確認するのですが、入浴がない日は「あくそうですか」と言われ、すごく残念な表情をされます。

担当寮母 河野 憲恵

佐藤 眞子さん (94歳)



施設の周りに桜が咲いたので、久しぶりに戸外散歩に出かけました。綺麗な桜を眺めながら、とても穏やかな表情を見せてくれました。

担当寮母 羽田野 瞳

工藤 久子さん (85歳)



笑顔の素敵なお友さん。ホールで目が合うと、いつも笑顔で手を挙げてくれます。スイーツが大好きで、本当に、幸せそうな笑顔で食べられます。

担当寮母 渡邊 加代子

4月生

首藤 サチ子さん (86歳)



「おはようございます」と挨拶すると、しっかりと顔を見てから頷いてくれます。桜が咲いた時に戸外散歩に出かけました。「綺麗ですね」と声を掛けると、頷いてくれました。

担当寮母 馬場 由希子